

動乱期・九州中学校と戦争

戦艦ミズーリ号の降伏文書 調印式の陰の立て役者



竹宮帝次(1943年卒)(1923~2010)
1923年、日系二世として米ロサンゼルスに生まれた。16歳で帰国し九州学院で学び青山学院に進学するも、学徒動員で旧日本海軍の予備学生に。
終戦直後の昭和20年8月末、日本海軍少尉として戦艦ミズーリ号での降伏文書調印準備に日本側のたった一人の通訳として立ち会い、米兵に囲まれながらの進駐交渉を通訳した。
交渉では、9月2日の調印式を前に、全砲口を初板へ向けた米艦数十隻を見事に東京湾内へ誘導したことで知られる。
通訳を超える行動力と英語力が買われ、戦後は米軍に引き抜かれ、日本人唯一の港湾統制部最高責任者などを歴任。平成9年に退職するまでの52年間に、28人の在日米海軍司令官を支え、日本の橋渡しを務めた。
昭和39年、当時のライシャワー大使が米原潜の日本初寄港を発表した会見を通訳し、米空母の初配備で地元調整に尽力。池子住宅問題では、米幹部に日本の環境調査受け入れを説く一方、地元首長に、米軍の巨大な抑止力と地域安定につながることを説明し続けた。基地前でデモ隊と語ることも。米側は氏を「大事な宝」(リンチ司令官)と呼び、海上自衛官、歴代外務次官も信頼を寄せた。2010年4月30日、86歳で天に召される。



1945年(昭和20年)8月27日 相模湾沖

1945年8月27日、戦艦ミズーリ号内で降伏文書調印式の事前交渉で通訳をする竹宮氏(右から2番)

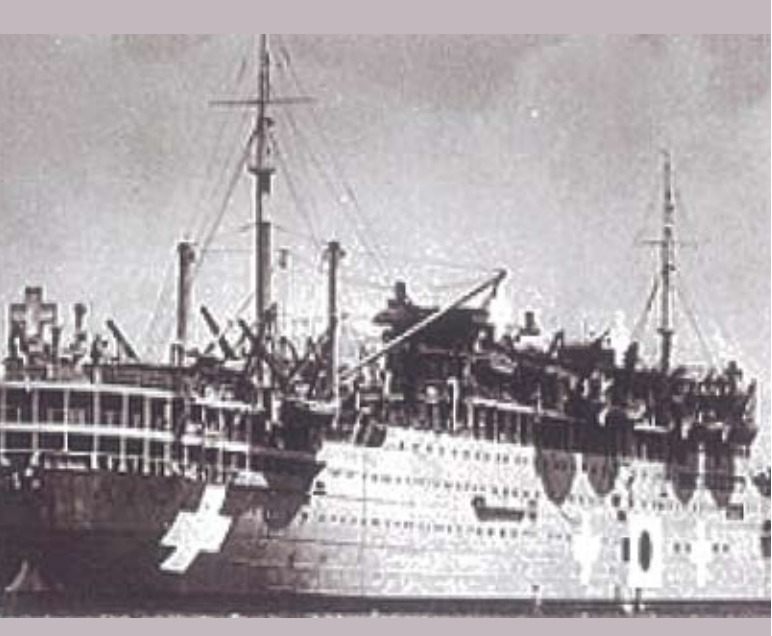


1945年9月2日、ミズーリ号の艦上での降伏文書調印式



米海軍横須賀基地池子支所にある竹宮氏を讃えてネーミングされた。レストラン&バー「クラブ・タケミア」。

日系人収容所からの入学生

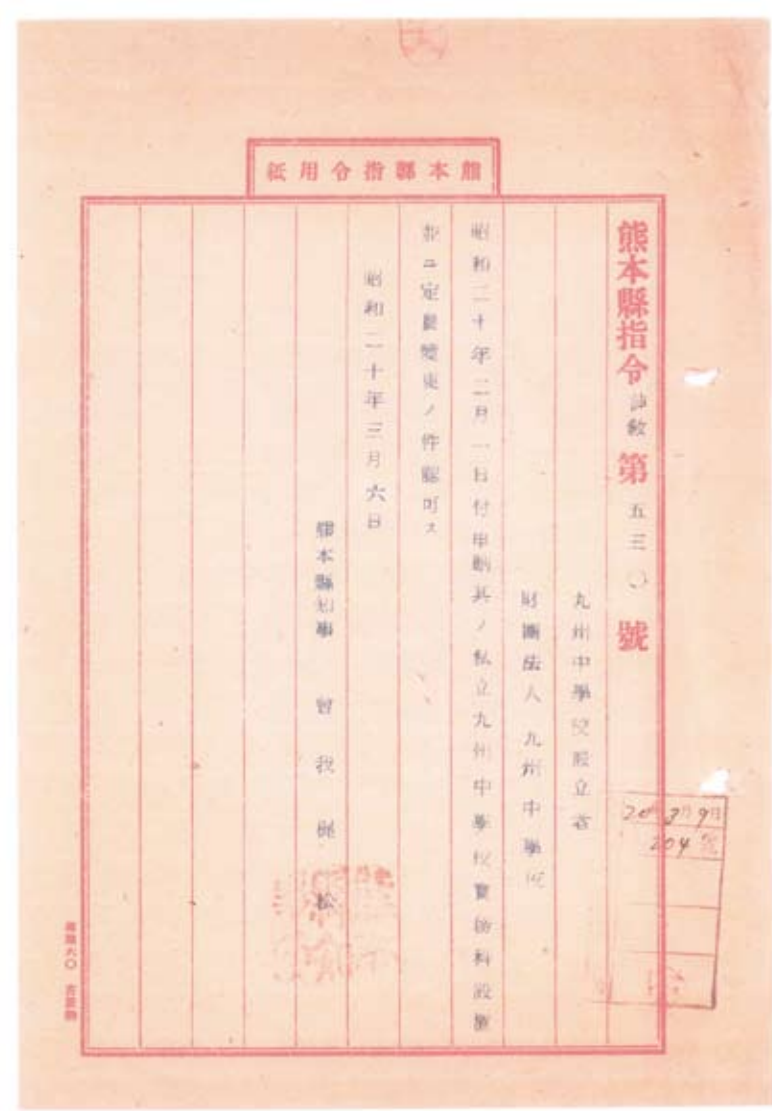


第二次世界大戦下の1944(昭和19)年に入学した生徒の池崎正(旧35)は、当時アメリカのカリフォルニア州に在住していたが、第二次世界大戦の間戦により日系人ということで強制的に内陸部のアーカンソー州の日系人収容所に手に持てるだけの荷物を持って収容された。
収容所は板張りの壁は隙間があり隣の部屋が丸見えのバラック。椅子も机もなく材木を拾って手作りで家具を作った。有利鉄線と外界と隔離され銃口を内側に向けた監視塔から監視されていた。そのような中で収容所の中の小学校を卒業した。
第二次の戦時交換船に乗船、アメリカ側はスウェデン客船グリップスホルム号がニューヨークを1943(昭和18)年9月2日に出港。ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ等に寄港して大西洋回りで航路交換地ポルトガル領ゴア(現インド)に入港。
ここで日本からの交換船帝垂丸に1517名が乗船10月21日ゴアを出港して、11月14日に横浜港に上陸して日本に送還されるといふ数奇な時代の荒波に翻弄されて帰ってきた人である。
彼は九州学院在学中、戦後に再開された野球部の名ショットで三番バッターとして華麗なプレイで大活躍された。卒業後は再びカリフォルニアへ帰られた。

ちなみに第一次交換船は浅間丸で昭和17年6月17日に横浜港を出港している。第三次交換船は日本の敗戦により中止となった。
帝垂丸はフランス客船アラミスを昭和16年12月8日にサイゴンで日本海軍に押留され改名して昭和17年4月より日本郵船に運航を委託した。その後昭和19年8月フィリピンのルソン島沖で米軍により撃沈された。

帝垂丸の写真はGoogle 悲運の戦時日本商船(14)より引用

幻の実務学科



1945(昭和20)年卒業年限を縮めて其の分を実業教育に充てるか、世に出して生業力の増強や、軍事情の増強に充当した方がいいと言う観点から中等学校の修業年限を1年短くし、1944年勅令第八十号国民学校令等戦時特例により、1944年度の四年生から通用し修業年限を四年とした。そこでこの年度の四年生は、1945年3月に五年生と同時に卒業することになった。
何ゆえに四年で卒業か定かでないが、一説によると当時上級学校の受験資格は中等学校四年終了までの修了で可であったからそれに合わせたとの説もある。

然るに四年で卒業させると軍需工場での労働動員に不足が生じることとなり、急遽1945(昭和20)年1月13日熊本県内政部長より「新規中等学校卒業生の労働動員継続並に之に伴う附設課程の設置に関する措置要綱」の通知あり
(1)上級学校入学者
(2)陸海軍(学校)に入隊(入学)する者
(3)国民学校各施行規則第九條に依る助教となる者
等を除き卒業後も学徒たる身分を保有して引続き勤務を継続せしめ其の修得せる熟練技能を活用すると共に学徒勤務の長所を發揮して生産現場に於ける能率の一時的低下を防止せんとすとなり、次の中等学校は学徒勤務を継続すべき者を進学せしむる修業年限一年の附設課程を設置するものとす
(1)中学校 実務科

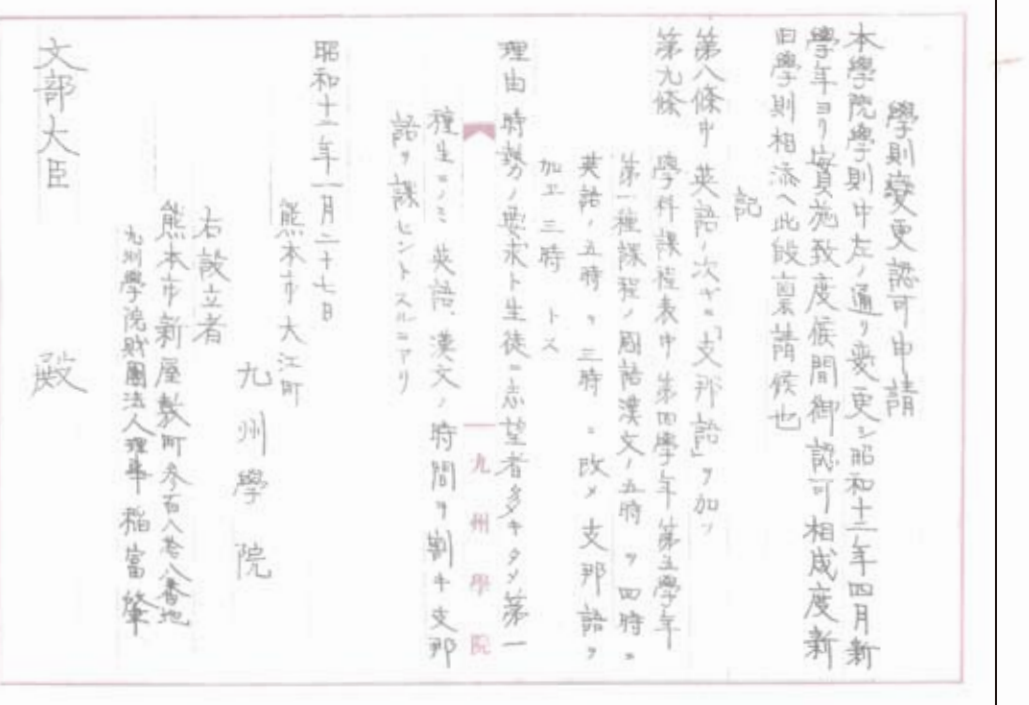
実務科は終戦となり、9月15日に解散式が行われ半年間の幻の制度であった。

九州学院から九州中学へ



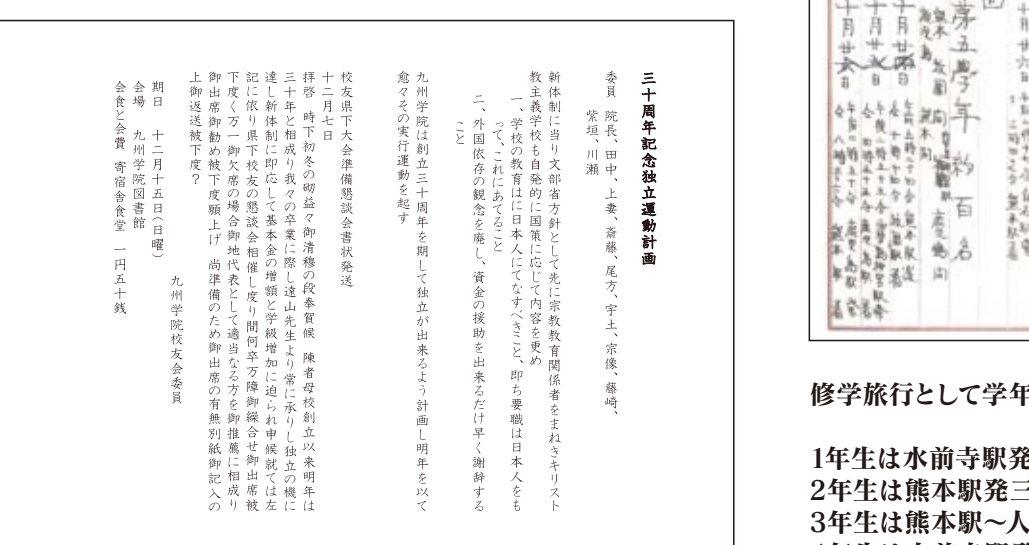
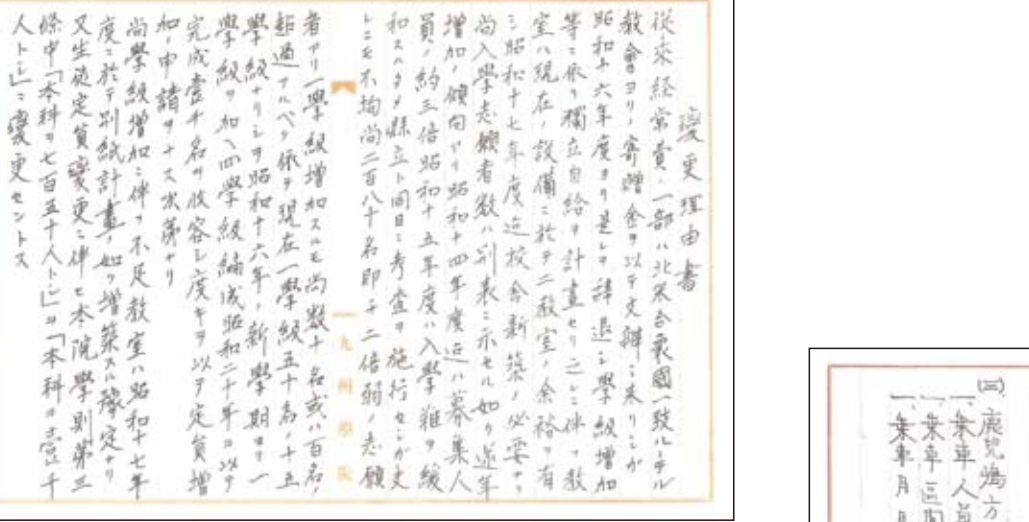
九州学院から九州中学へ校名変更
1943(昭和18)年4月1日から校名を変更した。
1月2日に「中等学校令」が改正され、これまで宗教教育や宗教行事が禁止されて各種学校として認可されていた、ところが戦争遂行のため労働動員の必要から政府は各種学校を整理廃止することになり、九州学院は閉校するが中学校に組織変更すること選ばなければならぬ九州中学校となった。

支那語を追加



1937(昭和12)年度より外国語の教科を英語に加えて支那語を追加する。国語漢文の5時間を4時間に英語の5時間を3時間に支那語を3時間とする。

30周年記念独立運動



独立運動計画
時局に鑑み外国依存を一掃しアメリカ一致ルーテル教会からの経常費の一部寄贈金を1941(昭和16)年度より辞退し、定員増・学費増などにより独立自給を図る

奉安殿竣工式



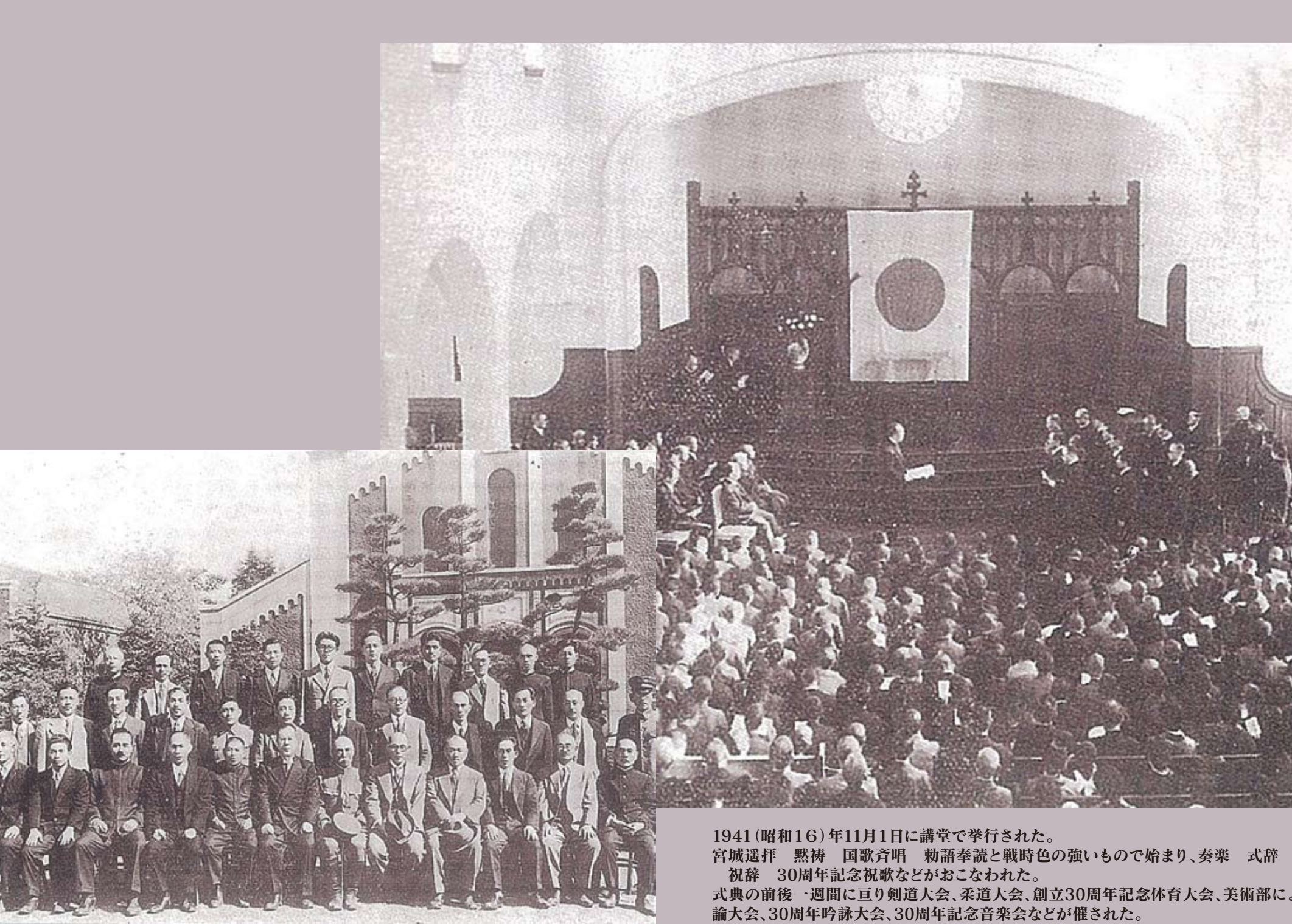
奉安殿竣工式 1933. 7. 14.
前年御真影(天皇皇后の写真)を奉獻し、コンクリート製の奉安殿が竣工影が納められた。場所はチャペルの南側、現在のテニスコートのところに設置された。
奉安殿の正面の本館からチャペルへの渡り廊下は飛び石になっており自然と頭を下げるようになっていると云われていた。

修学旅行



以下宗徳先生の記録
午前五時水前寺集合
職員6人 生徒七四名 九時頃竹田着 自動車にて一〇時ころ久住町直ちに登山
午後三時通頂上4時頃法華院温泉着
午前九時法華院発 午後二時頃湯着 夜暴風
午前七時湯湯大暴風を犯して帰路に就く 午後二時着直ちに洋服を乾燥さす
午後四時通の汽車発 午後五時通水前寺着

創立30周年記念式典



1941(昭和16)年11月1日に講堂で挙行政された。
宮城道雄 黙祷 国歌斉唱 勸学年談と戦時色の強いもので始まり、奏楽 式辞 永年勤続表彰 知事告辞 祝辞 30周年記念祝歌などがおこなわれた。
式典の前後一週間に亘り剣道大会、創立30周年記念体育大会、美術部による展覧会、30周年記念弁論大会、30周年吟詠大会、30周年記念音楽会などが催された。

寄宿舎の食事



モダンな寄宿舎の食堂様

昭和6年9月のメニュー

9月14日(月)	朝 味噌汁 里芋
昼 味噌汁 牛肉	
夕 味噌汁 牛肉	
9月15日(火)	朝 味噌汁 豆腐
昼 カレイライス 牛肉 馬鈴薯 玉葱	
夕 味噌汁 牛肉 馬鈴薯 玉葱	
9月16日(水)	朝 味噌汁 南瓜
昼 具敷 干瓢 椎茸 牛蒡 人参	
夕 味噌汁 干瓢 椎茸 牛蒡 人参	
9月17日(木)	朝 味噌汁 揚 箱
昼 肉煮込 馬鈴薯 玉葱 南瓜	
夕 味噌汁 揚 箱	
9月18日(金)	朝 味噌汁 若布
昼 クリームチキン 鶏肉 ピース バター	
夕 味噌汁 若布	
9月19日(土)	朝 味噌汁 萌子
昼 牛肉煮込 牛肉 里芋 馬鈴薯	
夕 味噌汁 萌子	
9月20日(日)	朝 味噌汁 豆腐 小葱
昼 味噌汁 牛肉 *野菜	
夕 味噌汁 *折茄子	

寄宿舎の食事 昭和六年九月 献立と費用

一人一日平均	10 銭
主食	18
副食	3
調味料	9
雑費	3
合計	40